

1. 現行の潤いファイルにもあるページについて

1、冒頭の「潤いファイルについて」2行目 「までの成長の様子と本人が、支援機関」とありますが、「までの成長の様子と、本人が支援機関」だと思います。（読点の位置が違う）同じく、3行目「保護者（本人）と」は「保護者や本人と」だと思います。

2、最後の「困った時の連絡先」について、「こころの健康センター」の言葉での説明と最後の表の色付けは、相談の対象に成人期が含まれていません。実際と違うので確認と修正をお願いします。

3、同上。相談先に「ひきこもり相談センター」「子ども家庭総合センター何でも若者相談窓口」が載っていません。掲載を省略されたのでしょうか？

No.6「プロフィール」

【家族構成】 欄。「＊同居家族以外でも支援できる方をご記入ください。」とあるが、「同居家族の他、同居家族以外でも支援できる方がいれば併せてご記入ください」とした方がよいかもしれない。

【保育・教育歴】で高校（高等部）までの記録はあるが、それ以降、専門学校や大学に通われたり、就労前に通った事業所等を利用した方が記入する箇所が「成人後の経歴」になってしまう。そういった記録を成人後の経歴欄に記入することでもいいと思うが、だとすると「成人後の経歴」表記だと「成人じゃない時期だから」と記入しない人や「記入する欄がない」と思ってしまう人がいるかもしれないので、どのようにするか検討が必要。

また、同じく「成人後の経歴」横に「所属している施設、会社名等」とあるが、福祉サービス系が多様化してきているので、施設だけでなく「事業所」という表記も入れた方がよいかも。

新たに追加したページに成人期がありますので、最後の相談先に障害者生活支援センターを追加しても良いと思います。一覧表は乳幼児～成人期。

※乳幼児期については、基本は療育センターになりますが、障害者生活支援センターも相談は可能になっています。また、相談先「こころの健康センター」の説明の内容が子ども中心となっているため、一覧表の時期として学齢期・思春期になっていると思いますが、新たに追加したページに成人期がありますので、成人期にも網掛けしても良いと思います。

①就学相談用 理解シートの見出しについて

※見出し→【就学相談用】 理解シート（学校への引継ぎ）
 【就学相談用】 就学相談の記録①（生活の様子）
 【就学相談用】 就学相談の記録②（視覚・聴覚・肢体の様子）

②就学相談の記録Aの段階表について

学習の項目 文字6 絵本の文章を読む →絵本の文章を読み、理解できる

2. 新たに追加したページについて

新たに追加した新規様式ページについては、「医療・服薬・検査等の記録」や小学校、中学校への「引継ぎシート」なども入り、今までより充実した印象を受けます。とてもよいと思います。

No.7「医療・服薬・検査等の記録」

【診断】欄「備考」のところに療育・訓練等とありますが、「訓練」という言葉は入れなければならないのでしょうか？（他障害種の人も利用するので入れなければならないなら仕方ないのですが、発達障害については「訓練」という言葉は馴染まないということと、この言葉が使われることによって保護者が勘違いしてしまうことは避けたいと思うのですが。いかがでしょうか。

また、その下に「脳波の異常」「その他（熱性けいれん等）と記載欄がありますが、診断欄上の「病気の記録」にも同じ項目があります。診断名の下にあるものを削除してはいかがでしょうか。（発達障害と脳波の異常や熱性けいれんが直接の関係があるというわけではないので、病気の記録欄にあればそれでいいのではと思うのですが・・・）

【服薬】欄。「備考」みたいな欄を作り、こういった事象に関して投薬することになったかみたいなことを記入できるというかなと思いますがどうでしょうか。

新規ページ「あなたと家族を支えるサポートネットワーク」

「支援機関」欄が、どんなところを指すかがわかりづらいかもしれません。療育機関や家族の相談機関が別に欄としてあるので、それ以外となるとかっこ書きで（利用している福祉サービス機関等）と補足するか？

No.11「相談支援の記録」

埼玉県と同書式にしてくださったんですね。共通になってよいと思います。ありがとうございます。この記録、保護者が振り返ってまとめていく形が一番ですが、何か相談メモのようなものがあったりする場合も考えて、このページにも下部に「別の様式がある場合は、その様式に差し替えることも可能です。」と入れた方がいいかも？

エコマップは分かりやすく良いと思います。

成人期の相談支援の記録シートの相談した日に期間がありますが、成人期の相談は基本は終わりがありませんので、相談した日のみで良いと思います。

・プロフィールについて、就労支援まで活用するようであれば、施設と会社の分類や、時間、勤務日数（通所頻度）等の記載があると参考になります。

・「医療・服薬・検査等の記録」には二次障害等での精神科への通院等も記載することになるのではないかと思いますので、通院歴（期間や頻度）や入院歴（期間等）の欄もあると参考になるとと思います。

①保護者などがどの時期にどのページを作成するのか把握しやすくするために、項目ごとにインデックス表記の工夫があると分かりやすい。

※表記名…プロフィール、医療・服薬・検査等の記録、就学相談、就学前の記録、学齢期の記録、成人期の記録（例えば、6つの表記で区別するなど）

②小学校・小学部への引継ぎシート、中学校・中学部への引継ぎシート、高等学校・高等部への引継ぎシートについて

※【本人の苦手なこと】の項目を追加するとよい。（〇〇年生の記録ページには本人の嫌いなこと・苦手なことの項目がある。支援方法を検討する際の材料の一つになるのでは。）

③あなたと家族を支えるサポートネットワーク

※各項目の幅を広げるなどの工夫があると、スペースが増えて記入しやすい。

④就学期の表記について

就学期→学齢期 の表記のほうが、小学校・中学校・高等学校などには分かりやすい。

No.12「引継ぎシート」

こちらも埼玉県と同書式にくださりありがとうございます。

No.21「あなたと家族を支えるサポートネットワーク」

No.22「相談支援の記録」

就学期として一括で入っていますが、可能なら「小学生・中学生・高校生」とそれぞれの時期の最初に入れられると良いかと思います。

もし、まとめてということならば、就学期の一番最後というよりも就学期（つまり小学生）の最初に入れた方がいいような気がします。

No.25「成人期の生活記録」

成人期に取り入れてくださりありがとうございます。保護者が子どもの普段の生活を振り返る意味で言えば、幼児期、学齢期にも同じものがあったてもいいかなと思いますが、いかがでしょうか。

No.26「相談支援の記録 成人期」

2枚あります。もしも2枚しか入れられないのであればこの書式の他もう1枚は、ご本人が書き入れることも考えた平易な言葉に置き換えた書式を入れるのはどうでしょうか。

「相談した場所・誰に相談しましたか」「相談した内容（あなたが話したことはどんなことでしたか？）」「どんな支援を受けたか（話を聞いてあなたはどう思いましたか？）」「その他（あなたはこれからどうしたいと思いますか？）」のような感じででしょうか・・・？

3. その他

新型コロナウイルス感染症対応で全く時間が取れず申し訳ありません。小児科医としては、乳幼児期から使用するなら乳幼児期の部分をもう少し保健センターや保育園や幼稚園等でも使用しやすいように拡充していくことが良いかと思いますまた1点のみプロフィール、生育歴の胎児の「衰弱」って何ですか？このような言い方はしないので削除してもよいのでは？と思います。

潤いファイル自体についてですが、さいたま市ホームページを見ると「このファイルは、特別支援学校・特別支援学級及び通常の学級に在籍し、保護者が活用を希望する児童生徒に対して、各学校を通して配布しています。就学前（さいたま市立幼児教育センター付属幼稚園を除く）のお子さんや、中学校卒業後の方については、さいたま市内の療育・福祉・保健機関などで配布しております。」となっていますが、教育機関においても「潤いファイル」の存在を知らない人が一定数いると思いますので、ファイルの存在意義と活用の意義を共通理解を深める意味でも、もう少し周知したほうがよいような気がします。

4、シートが並び順番年齢ごとに支援シートを重ねていく、ということかと思います。就学相談の理解シートは、就学前の様々なシートを使っただけで「就学相談」となり、「小学校への引継ぎ」とつながると思います。

5、同じく順番「あなたと家族を支えるサポートネットワーク-就学期-」の表が、もっと前（小学校の記録の前 など）の方が良いと思います。

内容については特に意見はございません。乳幼児期については保護者の方が記入するために、保育者等と面談する等相談することになります。潤いファイルについての周知が定期的にあると、保育施設側からもアプローチしやすくなると思います。

①シートの記入例は、改定案確定後の作成ということで、記入例P2【こんなサポートがあれば】【その他】については、よりよい支援方法を具体的に提示できるよう、特別支援教育室から提案した修正案の反映をお願いしたい。
②ページの通し番号があるとよい。

新規ページ「あなたと家族を支えるサポートネットワーク」とてもわかりやすくいいと思います。特に「家族が相談できる場所・人」や「家族がリラックスできる場所・人」として、タイトルにあるように「本人だけでなく家族のことも考えている」ことが出ているのは家族にとっても非常によいものと思います！

No.23「困った時の相談先」の一覧表

発達障害小冊子と同じでわかりやすいですね。

細かいことですが・・・「特別教育相談センター」→「特別支援教育相談センター」

あと、「高次脳機能障害者支援センター」は成人期だけですか？表の上にある説明だと子どもについても相談できるように受け取れるのですが・・・

全ライフステージを通した書式として使える「子供の現状・親の困り感と願い」をメモしておけるようなページがあるといいかなと思います。それが相談支援につながる前の保護者の思考の整理メモにもなるかもしれません。

埼玉県書式にある「年表」のページを追加できないでしょうか。

潤いファイル改定案（案）に対する御意見（庁内）

1. 現行の潤いファイルにもあるページについて

●『プロフィール【生育歴】のページ』について

①乳幼児期の発達を確認する項目で、「かたこと(発語)」について。

音を発する以外に、単語の意味を理解しているかについても把握する意図がある場合は、「意味のあることばをいくつかはなす」（母子健康手帳の項目参照にしました）などの表現にすると良いように思う。特にその意図がない場合は「かたこと」で良いと思う。

②食行動に関するエピソードとして、「離乳食や食事が進みにくかった、極端な偏食」のような、「食べる」行動で生じる困難さも発達の特性の感覚過敏（口腔内や唇など触れるなど）の可能性を把握するヒントにしている。「育児で気になったこと」などに追加しても良いように思う。

医薬・服薬・検査等の記録…【診断】、【実施検査】の枠数が少ない。

(P4)「必要に応じて、医療・福祉等の支援機関の情報（心理検査（発達検査・知能検査等）の結果、服薬の情報、放課後等デイサービスの支援計画書等）をとじておくことができます。」→心理検査だけではないので、心理は削除したほうがよい。（肢体不自由の場合など）

・プロフィールの保育・教育歴：「入学日・卒業日」とあるが、表の記載は年月までの記載となっている。年月日記入か月までの記入か統一すべきでは。

①就学相談用 理解シートの見出しについて

※見出し→【就学相談用】 理解シート（学校への引継ぎ）
【就学相談用】 就学相談の記録①（生活の様子）
【就学相談用】 就学相談の記録②（視覚・聴覚・肢体の様子）

②就学相談の記録Aの段階表について

学習の項目 文字6 絵本の文章を読める →絵本の文章を読み、理解できる

2. 新たに追加したページについて

4ページ…「○必要に応じて、医療・福祉等の支援機関の情報（心理検査（発達検査・知能検査等）の結果、**訓練の記録**、服薬の情報、**児童発達支援**・放課後等デイサービスの支援計画書等）をとじておくことができます。」について、太字部分を追記してほしい

各種支援の利用状況：利用開始日だけではなく、サービス種類も記載できるようにした方がよいのでは。

①保護者などがどの時期にどのページを作成するのか把握しやすくするために、項目ごとにインデックス表記の工夫があると分かりやすい。

※表記名…プロフィール、医療・服薬・検査等の記録、就学相談、就学前の記録、学齢期の記録、成人期の記録（例えば、6つの表記で区別するなど）

②小学校・小学部への引継ぎシート、中学校・中学部への引継ぎシート、高等学校・高等部への引継ぎシートについて

※【本人の苦手なこと】の項目を追加するとよい。（〇〇年生の記録ページには本人の嫌いなこと・苦手なことの項目がある。支援方法を検討する際の材料の一つになるのでは。）

③あなたと家族を支えるサポートネットワーク

※各項目の幅を広げるなどの工夫があると、スペースが増えて記入しやすい。

④就学期の表記について

就学期→学齢期 の表記のほうが、小学校・中学校・高等学校などには分かりやすい。

最終ページの各教育相談室の表ですが、※教育相談室での乳幼児期は「幼児ことばの相談」のみの記載をお願いします。

3. その他

①シートの記入例は、改定案確定後の作成ということで、記入例P2【こんなサポートがあれば】【その他】については、よりよい支援方法を具体的に提示できるよう、特別支援教育室から提案した修正案の反映をお願いしたい。

②ページの通し番号があるとよい。